



★花隈に デイスコティック45

粋な情緒の花隈に、これまた最新のニューヨークのファイリングを持ちこんだデイスコティック「フオートイファイブ」（旧くらぶ花隈TEL5151二九高速花隈駅上る花隈中央通り桜井外科西入る）が、十一月二十日にオープンした。

音響装置に一五〇万円かけたというこのデイスコティックには、ニューヨークから直送されてきた新しいレコードががり、外人の女の子がデイスコジヨッキをやっている。

ブルーの照明の部屋の中はモダンなインテリア、大人向けの本格的なデイスコティックができた訳。

さてお値段の方は、テーパーチャーj料八〇〇円、水割り四〇〇円、サントリイオールド四〇〇円、ビール四〇〇円。会員は入会金一万円、法人は二万円月会費ナシ。

営業時間、土、日は午

後五時〜三時迄、平常は午後七時〜三時迄。

麻生れい子が、しばらくママで来ると噂もあるが、さて……。

★死にたくなるほど
カクテルがのみたい人に

貿易センタービル十七階の国際観光喫茶「ブルースカイ」が、十二月十日（予定）に夜のカウンタコーナーを拡張してオープンする。

今までの神戸にないようなブリテッシュスタイルとブランドイを燃やす青の炎のようなムード、そして神戸の夜景を楽しめるといってこぎげんなカウンタコーナー。オープンした10、11、12日はブルースカイカクテルのみほうだいというから、あの娘をデートにさそってかけてみてはいかが？

★華麗なる脱皮

万博の世界カクテルコンクールで金賞を射とめた小林省三さんが、神戸市生田区北長狭2丁目ケラーの二

F33—二六一五で「サヴォイ」を十一月十日引越しオープンをした。

ゆったりとした店内は、カウンタ10脚。シックなインテリアに暖炉も燃えて落ちついでる店。

カクテルの腕のたしさが楽しめるので、洋酒ファンにはうれしい店の引越しオープンだ。



小林さん夫妻

★夜のKOBEBEが楽しめる
レストラン
「ムーンライト」

生田筋のユニークなレストランとして注目されていたムーンライトのレストランが、このほど喫茶とレストランとして再開店し、生田筋の開店らしい雰囲気をも漂わせている。

外からは植木で見えないけれど、なかからは夜のネオン街と車や人が眺められ、なかなかいい感じ。

KOBEBEも牧場から直送とあって美味しいし、喫茶だけでも店に入るので気易さができて楽しい。

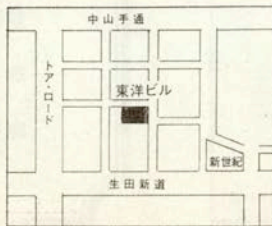
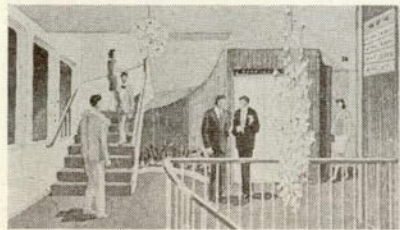
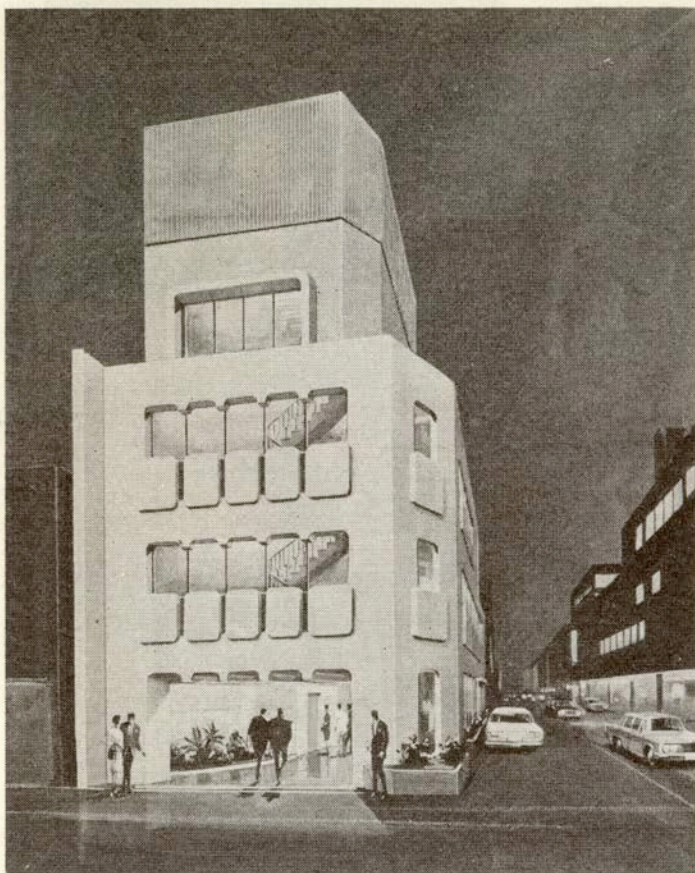
★神戸うまいもん
ドリンキング
スナック・バー
マゼラン

神戸市生田区
加納町4丁目
TEL39—2366

阪急三宮の山側にある但馬銀行の北露路を入り質屋を浜につきあつたところにある。スナック「マゼラン」は、神戸らしい港町情緒が漂う店。

この12月で5周年をむかえるが、神戸のスナックはしりの店で、今や雰囲気も落ちついた感じで風格がある。12月10日11日12日の三日間は5周年記念に来店したお客には粗品が進呈されそうだ。午後六時から三時まで、若い女の子も外人も中年紳士も一緒にくつろげるし、マスターの香川さんが気さくな感じで、くつろげる店だ。





第2期

テナント募集!!

飲食店専用貸ビル

東洋ビル

今270万円お持ちでしたら、内装・諸設備を含めて、すばらしいお店の経営者になれるのです。

さきに募集させて頂きました当ビルB・F・1F・2Fにつきましてはお陰様で満室となり、各店盛況にて御好評を頂いております。

この度、第2期と致しまして入店者募集を致しております。

3F 店舗数 8軒各室共

(電気・水道・ガス・テレビ・電話・有線) 配線・配管済

一店舗当り 面積6~8坪

敷金170~200万円

(4Fまでエレベーター有)

★ママさん募集!!

貴女の腕を生かすチャンス到来

家賃 1日 5,000円(日曜日不要)

敷金造作費一切不要

店舗設備一切完備

家賃前払(52日間)

消耗費 1年間12万円 } 38万円OK

場所 新築ビル(東洋ビル)3・4F 6坪
スタンド10数軒

お早めに下記へご連絡下さい。

東洋商事株式会社事務所

神戸市生田区中山手通2丁目93

東洋ビル4階 TEL39-3051

本社 チェリービル内

TEL39-0175

忘年会、新年会に！



〈北欧ヴァイキング料理〉

1400円〈飲食税 140円別〉

飲みほうだい（サントリー純生ビール）+ 食べほうだい
クラウン・コーラ

一品料理、日本酒も準備いたしております



なごやかなムード

すばらしい眺望！

スカイサントリー

三宮交通センタービル9F TEL. 39 3705~6

元祖 **焼鳥**

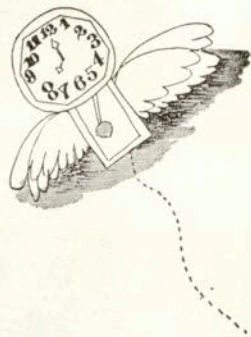
おいしさが
口いっぱい
ひろがる……
本場の味



**ばた
なち**

- 三宮センター街柳筋店
TEL 32-3446・33-0572
- 新開地店
TEL 56-1191
- 平野店（平野市場内）
TEL 36-0821
- 三宮センター街サンプラザビルB1
TEL 39-3793

神戸百店会
だより



★初のキャンベラ号上フアッショ

10月30日、神戸フアッション情報センター主催による、我国始めての本格的船上フアッション・ショー「オプショネイト・オン・ザ・キャンベラ」が開かれた。田崎真珠、エステーニユートン、ベニヤ、セリザワ、ベニー毛皮店、クロス、ブランドゥ、ブランド（ジャン・パトウ）の百貨会メンバーを始めとする十四店が参加、それぞれの店の個性を発揮して、華やかに美を競いあつた。



キャンベラ号上フアッショ
ン・ショー

★サノへ

キャピタル・フェア開く
元町2丁目の舶来服飾雜貨サノへが、さる10月28、29の両日オリエンタルホテ

ル2Fバラの間で、恒例の春夏ものフランス・コレクション・ショーを開いた。フランスの一流メーカー

のワンピース、コート、パントロンなど、流れるシルエツトや色彩の美しさにパリの香りが漂うひととき。この秋に注文すると、来春には自分の体型、好みにあつた服がパリより直送されるというスペシャル・リザーブが好評。



サノへ・ファッション

★元町バザー12月3日

新装オープン!

ネクタイの専門店元町バザーが新しいビル completion とともに、浜側の新店舗へ移り営業をはじめました。

ベージュの大理石のディスプレイ・2階はドームの窓となかなかクラシックで粋なお店になります。2・

3階は、おろし専門になりますが、一階と同じくステキなインテリアです。商品も一段と巾広くなり、格調高い店として元町の人気をさらってしまふことでしょう。



新装なる元町バザー

★ベニー毛皮店

サロン・ショー開く

今年は特に、最高の品質を誇るノース・アメリカのミンクに重点をおきました。というゴージャスな毛皮ショウが、国際会館1Fのベニー毛皮店で開かれた。

ノーマル、ミディ、マキシと毛皮も多彩なフアッションを表現。クリスマスや新年の集りにふさわしいエレガントなミンクストールから、男ものコートにいたるまで、約50点の新しいデザイン作品が発表され、女性のため息を誘った。特にホワイトミンクで作られた長めの新型ケープは和装にも両用できるので好評。



ベニー毛皮店ショー

● ショップ・トピックス

★さんちか風月堂のルナ・ピナコテカでは、12月末まで、沼田かずゑさん入光風会Vの油絵を展示しています。百号の大作3点を含む作品はヨーロッパの風景と人物を交錯させたファンタジックな画風です。絵を鑑みながらのティー・タイムをお楽しみください。

★12月1日、2日の両日、恒例のランド・ショップ・クリスマス大バーゲンを、国際会館5Fで開きます。参加店は良服のみよしや、洋傘・ショールのオカダ、宝飾のタジマ、ハンドバックのシラサ、ネクタイの元町バザー、婦人服飾のズギヤ、紳士服の渡辺靴のヨシオカ、日頃手を出しにくい高級品がお小遣いで買えます。AM 10時PM 6時

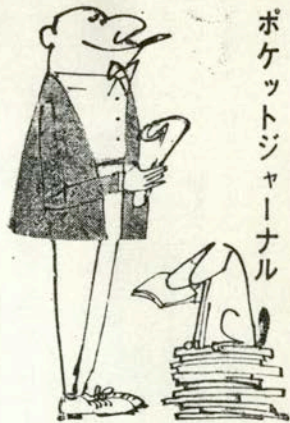
★トア・ロードのサロン・エレガソノ・サノへにフランス・シクロンのジュニア・コートが入荷しました。

★おもちゃのカメヤでは、来年一月2日から5日まで、さんちか広場で恒例の「新年おもちゃ祭り」を開きます。ゲーム類を中心に実演を多くとり入れ、今年はこの子供に限らず大人も楽しめるおもちゃ類を幅広く用意。ほんとは綿菓子やポップコーンを作れる機械など人気を呼びそうです。

★クラブ花隈が11月20日、関西で始めての本格的デイスコティック・クラブ「デイスコティック45」を開きました。

★東京・東急百貨店渋谷店売場が変わりました。神戸ショウが1Fから4Fに、靴のヨシオカ、ネクタイの元町バザー、紳士服飾のろねが6Fから4F、欧風家具の永田良介商店が1Fから6Fに移り、落ちついた雰囲気の中で、神戸のセンスを発揮しています。

ポケットジャーナル



★市民の学校5年の祭り

市民同友会（生田区三宮町一丁目一七ミヤワキビル五階）が開校している市民の学校が五周年を迎え、十二月五日六時～九時三十分迄県民会館十二階ホールで「市民の学校五年の祭り」が開かれる。プログラムは一部 小さな儀式
 二部 青春と文学シンポジウム「われわれの青春にどうしてハレンチとは何か」
 司会松原新一、パネラー青野博、有馬アツ子、石上弘美、滝本秀樹（市民の学校終業生）
 三部 お祭り 男女対抗レース ハプニングバレー等多彩なスケジュール。
 一般の人の参加も歓迎。申込みは同友会へ（一〇〇〇円）

この五年で五百人の卒業生を送り出した市民の学校の事務局長若本昌久さんは「よくぞ続いたということですが、神戸がさきがけて場を作ったということ、

大阪の文学学校が注目してくれています。京都にも四月に文学学校をつくったけれど、神戸は市民の学校があるでまかせてくれている感じがです。これで三都市が一応、市民の文化活動が根付いたようです。神戸も文化不毛といわれているけれど、市民の文化活動が着実に進まれているということですね」と語る。地味だが充実した市民の学校五年の人づくりに拍手を贈ろう。



市民の学校授業風景

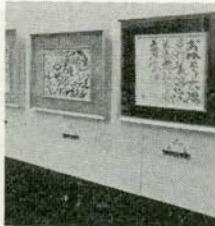
★ユニークな書家

室之園忠雄氏個展

「書家を志ざして十七年昭和三十五年の第一回日展

に入選の、室之園忠雄氏（松陰女子高等学校教諭）が今年で五回目の個展を三宮ひこばえ画廊で（十一月三日から六日間）開いた。

「私自身の言葉の遊戯によつてできたもので、和歌や詩はなく、文字を素材とした造形芸術を読んで、楽しく観ていただくことよつて、現代の政治・公衆氣を味わつていただければ」と、文にあらざる言葉を書いた色紙三十点のユニークな内容の作品に、「これからの書道のあるべき姿ではなからうか」という声も聞かれた。室之園氏の書道教室が、毎週火曜日と土曜日午後五時から八時迄、同じひこばえ画廊で開いている。

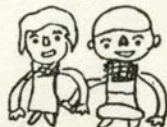


室之園忠雄氏個展

★神戸ドレメ「第一回ファッションセミナー」開講

神戸ドレスメーカー女学院（福富芳美院長）では日本の新しいファッション産業界で活躍する人々や、更に深く専門の技術を身につけたい人達のために、来年一月十五日より二月二十四

誕生日
 ありがとう
 運動



△はじめに▽
 この運動は、誰にでも年に一度めぐってくる誕生日を機会に、自分が今日あることを感謝すると共に、精神薄弱児を正しく理解し、あたたかい思いやりのある心を通わせようという啓蒙運動です。

△運動のねらい▽
 ○正しい知識を提供する。
 ○意識の向上をめざす。
 ○さあ実践しよう。

無知や誤解から生ずる不幸な事態を防ぎ、偏見や差別のない明るい社会建設のため、自分のできることからはじめていこう。そして「人間みな仲間」というつながりの心をもつて取りもどけよう。そこがもっと精神薄弱児（者）に対する正しい理解と愛情が生まれる。

△誕生日を有意義に▽
 誕生日のお祝いの中から意識的に百円節約し献金する。各家庭でこの問題について話し合う機会をもつ。このことを手がりとしてわたしたちすべてが精神薄弱児を正しく理解し、精神薄弱児（者）をあたたかく包む雰囲気を広げると同時に、一人ひとりの心がえのない生命について思いをめぐらせ誕生日を有意義にする。一こうしたあなたとわたしたちの運動、それが「誕生日ありがとう運動」です。

△趣意書、ポスター、運動のしおり、ボランティアのしおりなど詳しい資料が事務局に用意してあります。お申込みをお待ちしています。

◇誕生日ありがとう運動事務局
 神戸市葺合区小野南通 市立青陽養護学校内 ☎一五五九

日まで、週二回、午後一時から五時迄フアツションセミナリーが開かれる。

プログラムは「フアツション情勢と情報」、「立体的断」(グレーディング)、「デザイン画」など。

募集人員二十名、受講料四万七千円で、だれでも参加できる。

お問合せは神戸ドレスメーカー女学院事務局までどうぞ。電話〇七三三

★海輪利光氏、フランス政府より学術功労賞を授与

小児科医であり、神戸東ロータリアンである海輪利光氏に(芦屋市業平町六の六、六十七才)このほどフランス政府から学術功労賞としてオールド・ドユ・メリット勲章が授与された。



海輪 利光氏

これは氏が足かけ四十年以上フランス医学の紹介につくされ、医学を通じての日仏交流に大きな貢献をされた業績によるものである。いまの若い人達には知られてないが、昭和八年、わが国で初めて編まれ出版されたのが海輪さんの「仏和医学辞典」であり、この他にもいくつかの著書があ

るが、例の谷崎潤一郎の「文章読本」と一緒に刊行された「母の読本」(中央公論社)などはこの種の本の先駆的なものである。

★情熱のフラメンコ リサイタル

フラメンコに魅せられた若者14人。カステネットをひびかせ、足を踏み鳴して踊りまくった、伴・阿部舞踏研究所リサイタルが10月11日国際会館で催された。



激しいスパニッシュ・ダンス

同研究所のクラシックバレエに引き続き、スペインのパコ・ルイエス氏り振付けによる野性的な激しい舞台が展開された。

関西では、数少ない男性舞踏家の東伸一矩さんをはじめ、9人の美女が裾をひるがえして勢揃い、フィナーレをセビリヤナスの踊りで飾った。

来春には、伴須美さんのスペイン帰国リサイタルが開かれる予定。スペイン本場の臭いを期待したいもの。

★「私は外へ出て見た」 中西勝画伯が画集出版

四年半、メキシコ・トルコ・モロッコ・グアテマラ・ギリシャなどの僻地とアマリカ、ヨーロッパを旅行して今年帰ってきた中西勝画伯の、世界旅行による画集「私は外へ出て見た」が、このたび梅田画廊より出版された。

モロッコのベルベル族の「黒い聖母子」、メキシコの「サボテンの道」など、強烈な土の臭いのする原色版カラー10点、モノクロ版60点、それに中西勝・咲子夫妻の旅の想い出を物語るスナップ写真に絵日記など詩情あふれる画集である。咲子夫人の17頁の旅行記も、細やかな女性の眼でみたコミカルな筆のタッチに一層画集をひきたて、巻末には詩人の足立巻一さんが文を寄せている。

梅田画廊出版、一五〇〇円
ATEL 三四・五七



★ドライバードメモ 一九七〇年の 忘れもの

川口陽之 (自動車評論家)



一九七〇年もとうとう終る、読者の皆さん、この一年間の忘れものをしみじみ思い出してみませんか。

交通事故を起したのに、まだ裁判所から呼び出しがこない、免許停止の通知もこない。裁判所も、公安委員会も忘れてくれるのを願っているドライバードメモもあるだろう。

私の整備工場で、中古車を完全再生することがよくある。この際シートをはずしてしまいが、この時、必ず出てくるのが「十円玉」である。乗用車は五枚以上、小型トラックは五枚以下というの、きまっちゃってしまっている。トラックには五十円玉、百円玉は絶対におちていないが、乗用車にはタマに出でくる。

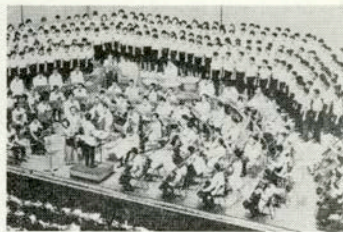
その後には多い忘れものに「ロバニ」である。ドライバードメモに酔った女性がセップするためだろ。

もっとひどいのに「シームレス」や「フルファッション」のナイロン靴下がある。お色気ブブブブだが、この靴下は、すべて伝染病にかかったヤツばかり。妙なモウツウは必要ないらしい。

★神戸労音20周年記念の集い

神戸労音では二十周年を記念して、十二月十日午後六時半より国際会館においてベートーベン生誕二百年記念(その五)「第九交響曲の夕」が開かれる。今回の第九交響曲に出演する合唱団は全市的に有志をつのり百八十人によって今年の六月につくられ、名合唱指導者桜井武雄氏をむかえて半年にわたる猛訓練によってきたえられたもの。独唱者も今日わが国の第九ソリストとして最高の人たちをそろえ、今年の締めくくりとして力を入れている。この他に十二月二十七日

国際会館で、フランス・ポプス界の新星ダニエル・ビダルを迎えて例会が開かれる。ゲスト出演 サニー・トーンズ。

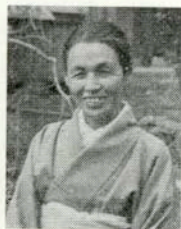


ベートーベン生誕二百年記念の「第九」

ポトナム短歌会に属し、四十数年の短歌生活を送ってきた落合実子さんが、さる十月、短歌集「海の雪」を出版した。

収められた歌は昭和三十一年以降のもの。日々の折り折りに歌われた心弱い女身の様、また生活に密接したところから生まれた根強さが感じられる。

△定価・八〇〇円▽



落合 実子さん

花時計



「お祭り」に智恵をあつめよう!

神戸みなとの祭、神戸カーニバルと二つのお祭りが解消して、一本化される。元来、神戸には祭りが少ないけれど企画されたのが神戸カーニバルなのだが、現在の都市の実状から見ると一本化とい

う方向が決った。

そして、新しい神戸の祭を考えようということになっている。

「お祭」といえば失敗例として、日本万国博でのお祭り広場があげられる。あの一八〇日間に亘って、お祭り広場が本当に楽しかったのは、夏の夜店だけであったといわれている。あのマンモスひろばが人間の笑顔であふれたのは、その時だけであった。「お祭り」は催しではないことをしっかりと考えておく必要がある。催しになってしまう

と手際よく片付いても決して盛り上がらない。

運営する立場の側は出来るだけ面倒を避けたい気持ちに馳られるからだ。市民がなとめる「お祭り」はどんなものなのか

一本化をはかる場合、もう一度、原点に立ちもどって真剣に考えをまとめることだ。

これをしっかりとっておかないとお祭に参加した人にアルバイト代や弁当代を払わなければならない。

△Y▽

KOBE POST

★具体美術協会の吉原治良氏は、二科理事を公の諒解を得て退会されました。今後は具体美術協会だけの所属とされます。

★本誌でおなじみのチームURの好青年小林郁雄さんが、同じくチームURの奥野真弓さんと十一月一日六甲山ホテルで挙式されました。おめでとございませう。

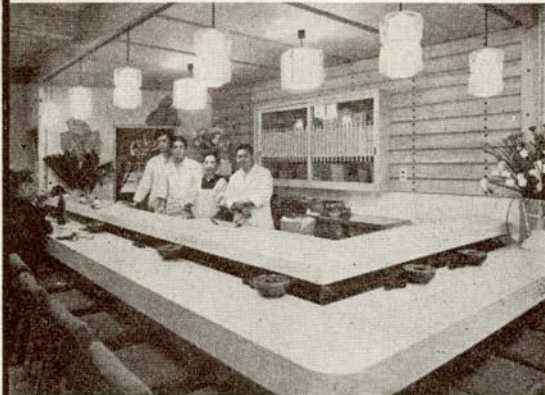
★書道の望月英佐さんが十一月三日から11PMの「女厨の文字」の著者元東大教授文学博士藤堂明保さんのインタビューと、文字を書く人として登場。週二回のレギュラーとあって東奔西走、北海道、博多と飛び廻っての活躍です。

★京都新聞会館で十一月十四日神戸・京都・大阪など関西の彫刻、造形の若手メンバー「フィルム造形グループ70」の約二十人が集まって、実験映画の発表会を開きました。神戸からは河口竜夫、植松奎司、向井猛、中田誠さんが参加出品。京都新聞が後援して一〇〇人のホールは無料。植松奎司さんは神戸でもやりたいといっていますが、さて神戸では高い高いホールばかり。何とかありませんかね。

★柴田多喜子さんがアカデミー神戸「ゆめのサロン」(兵庫区熊野町一丁目七三 TEL 51-894三)を、神戸夢野に開かれ、音楽と造形芸術のユニークな教室や、ミニホールパーティーなど文化の場をつくられました。

★香西精氏が兵庫県文化賞をうけられました。香西氏は、能楽の世阿弥研究家として全国に知られた方で、その研究に対しての功勞をたたえたものです。

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



又平の鮓

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮 (33) 0 9 3 5

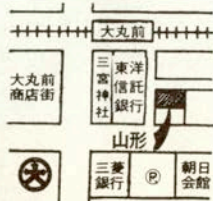
なごやかな雰囲気の中で
冬の味をお楽しみください
ご家族連れでどうぞ



焼鳥 名物 山形

東洋信託銀行東路地
TEL 33-5979
32-2417

定休日
第1.第2.第3日曜日



キリシタンの墓

小山 牧子

え・石 阪 春 生

村重船長

寺田春暁の飄々とした老体が、館をかこむ榎葉垣の繁みのむこうに消えるのを見送ったあと、佳はしばらくの間、ポーチに立ちつくし、放心していた。

この台地の暮景には、凄惨なものがある。炎の塊りのようにくるめく太陽が沈むと、海はチャコオル・グレイの壁のように眼下に長く横たわる。残照に映えて、木々の枝々は、漂白された骨の色に、その上で雲たちは原色のだんだら模様染めわけられる。血の色の赤、深淵を連想させる緑、死の相に沈む紫など……。黒ずむ西の空に混然と投げだされたそれら、いやらしい原色の雲たちは、空で虐殺された獣の無造作に捨てられた内臓のようだ。

その空に、西側に建つ異人館の鈍色の屋根と尖塔が兇器のように刺っている。崖を背にして建つその館は、この台地で最も威容をほこる建物であったが、わずかな期間に転々と持主が変わり、いまでは一人の篤志家が館の内部を植物園として改装し、公の用に共している。

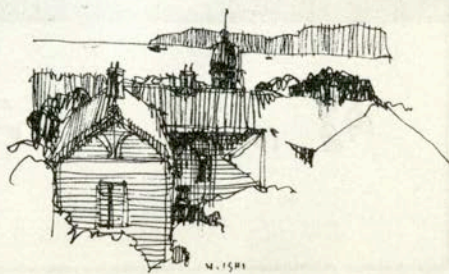
台地におとずれる凄惨な暮景——。それはこの台地の異人館に住む人々におとずれる運命の象徴であるかも知れぬ。年ごとにこの台地に建つ異人館は姿を消してゆき

そこに住んだ人々は、消息を断つてゆく。

深い木立にかこまれた家々では、隣人同志の緊密なつながりは無い。一つの家族は、古い館の奥にひっそりと住み、戦前の上流階級者にふさわしい脆弱さでそれぞれの上に見舞う不幸を受け止めひしがれる。やがて、館は人手に渡り、彼等はひっそりとこの台地から降りてゆくのだ。

黒い雲塊と化した樹林の奥から風が立った。風は、ポーチに立つ佳の心を吹きぬけ、佳を慄然とさせる。風は暗い予感をともなって佳の内部を吹きぬけ、奇妙なおびえだけを佳の心に残した。

他の館の住人たちにおとずれた不幸、その多くは没落であったが、いつか佳たち家庭にも異った形の不幸がふりかかるかも知れぬ。佳の一家は、没落などという未来が口を開いているほどの資産を持つてはいない。父、裕作が懸命に働いて一家を支える勤労階級である。が一年の大部分が航海に明け航海にくれる海の男であってみれば、その生命の危険度も大きい。外見は平穩に見えるけれども、情熱の歌人蘭子とおだてられて有頂点になる軽薄な主婦に支えられている佳の家庭。蘭子の歌人生活



が名声の代償として多額の金を注ぎこむという方法で続けられているのだから、それほどたくわえがあらうはずがない。したがって、一家の働き手である裕作に万一のことがあると、どのような形でもあれ佳の一家は崩壊するだろう。

夕風に吹かれて立つ佳が、どうしようもない一家の崩壊の予感に胸ふさがれたのは、背後のロビーに住みつきひまさえあれば例のしわがれ声でがなりたてる九官鳥に影響されたからであろうと察しられた。すると、その不吉な鳥に入口をふさがれる館全体が、湿気を一杯にふくんだ暗い洞窟のように思えてくる。

——どこか、この家から離れた遠くにゆきたい——

佳は思う。それができなければ……、そうだ。パパが帰ってくればいいんだ。パパが。

パパが館にいと、一日一日がなんと楽しいことか。パパが帰っている間、佳はパパの用を決して蘭子にはさせないだろう。もうずっと小さい頃から、そう……二歳にならなくらいの頃から、パパの紅茶にウイスキーを注いであげるのは、佳の役目だった。新聞を寝床にもっていつてあげる仕事も、佳の楽しみだった。いまだつたらヒゲ剃り用の電器カミソリの掃除から下着をととのえることまで、パパに関係した一切の仕事に、佳は生きがいを感じるだろう。

そうだ、この佳の心を閉ざす奇妙な不安をのぞくために、佳を安心させ、ゆっくり眠らせるために、パパが帰ってくればいいんだ。一日も早く……。

「ケイ」

背後で呼ぶ蘭子の声に、佳は我に返った。

「食事しない？」

再び蘭子と二人きりでむきあつて過す夕餉のひと時蘭子はいつも同様カン詰料理を得々として並べるのだろう。コーン・ビーフにアスパラガス、ポタージュ・スープもカン詰の即席で、生野菜だけは冷蔵庫に貯蔵してあるものをふんだんに盛りあげ、

「たくさん召上れ。オイル・サーディンって身体によいのよ」

佳がほんの少しうんざりした表情で、前に並ぶ皿を押しつけてもしようものなら、

「煙草の吸い過ぎだわ、ケイ」

とくるにきまつている。

不承不承といったようすで館の玄関に足を踏み入れる前、佳はいつもの習慣からドアのわきに取りつけた郵便受けに手を入れてみた。と、中に一通——。そうだ、その日は、久しぶりに春暁老人という来客をむかえ、来信箱を調べる余裕がなかったのだ。

残照にすかしてみると、手の内にある封書はまさしく航空郵便である。佳の表情が一瞬ぱっと明るみ、小さく叫ぶ。

「あっ！ パパからだわ」

そのまま荒々し過ぎるほどの軽い足どりになって自室への階段をかけ登ろうとする。

「ケイ。どうしたの？ お食事に呼んだのに聞えなかったの？」

あつげにとられる蘭子に、

「いらぬ。欲しくないのよ」

郵便をふりかざしながら、佳は少しシニカルになっている。

「お手紙？」

「ええ、パパからよ」

答えてからはじめて、佳は父の裕作からの手紙が一通だけだったことをおもいだした。が、階段の途中でたしかめた宛名は、明確なタイプ文字で、

Miss Kei Murobayashi

とある。

「まあ、相変らずのパパ……」

父の几帳面さに苦笑しながら、妻への便りを省略する男の奇妙さに気づかぬ佳である。だからまして自室にこもろうとする佳を見送る蘭子の淋しげな立姿などに意を

介することも無い。

愛するケイ。パパはいま、ケーブ・タウンにいる。

胸をわくつかせて開封した父の便りは、いつもそうであるように、娘に贈るよりは、恋人や愛妻に贈ってこそふさわしい格調のある言葉で、その冒頭をはじめていた

一人である時のケイが、パパのことを思いながら、何度も世界地図を指先でなぞり、よくその港の上で指を止めたことと思うが、この暗黒大陸の南端にある港での夜、パパもまた一人でいて、ケイのことだけを思っている。ケイ、元氣だろうね。

かつての航海者たちが、孤独な航海の果てにたどりつき、茫洋たる前途に一筋の道を見出した喜望峰に最も近いケーブ・タウン港。パパもまた、喜望峰を経由してインド航路を開いたヴァスコ・ダ・ガマの偉業には



及びもつかぬが、このケーブ・タウン港で一筋の明るい水路を見つめはじめている。というのは、その水路は、故郷である日本の神戸につながり、そこに住むケイの若く少し神経質そうな顔につながっているからだ。こう書けば、頭のよいケイのことだ、すぐに察しがついただろうけれど、パパたちのタンカーはあす喜望峰をめぐる極東への旅につくことになっている。むろん、最終の目的地は神戸港だし、今回はM造船で四十日間のドック入りをする予定になっている。だから、久しぶりの閑暇な日々を、ケイのそばで過ごせるんだよ。

帰途に要する日数は、約一ヶ月。来月のいまごろは、日本に帰りつき、ケイのそばにいろだろう。館の前庭に引きだした揺り椅子に腰を下ろし、ケイがパパのために作ってくれるサンドウィッチとウイスキー・ティを味わえる日も近いということだ。

さて、佳。愛するケイよ。それまでの一カ月ばかり、ケイはママの言いつけをよく聞く明朗な娘でいてくれないだろうか。ケイが時にママに反抗したくなる気持もわからぬではないが、大人になったケイは、もっとママをよく理解してあげなければならぬとパパは望んでいる。ママの華やかな面にだけ目をむけてはいけない。もっと他のこと、ママが持っている女としての淋しさや悲しみ、それにあわせて、男としてのパパが持っている欠点なども理解し、だけど、それらすべての人間の弱点をのり越えて、ケイ、きみはなおも骨肉やそれ以外の同じ時代に生きる人々への愛にみたまされてる豊かな女に成長してもらいたいと、パパは期待する「クソ姿ア……」

手紙を読み進めながら、佳は蘭子を呪った——航海中の父に、娘のグチを書き送り、

いらぬ心配をさせる低級なママ——

ケイ、パパの知るかぎり、お前は敏感で情にもろく、この上なく優しい娘だ。だが、その繊細さの故に、この汚毒にまみれた人の世に生きる上で、他の鈍感な娘以上に多くの傷を受けるだろう。常々、片親同様にして育つケイを、パパとママがあまりにも溺愛しすぎたということが、ケイをさらに傷つきやすくしたという結果になっているかも知れない。許しておくれ、ケイそしてケイ、どのように傷つき絶望の底にいる時でも一度は必ずパパのことを思い出してほしいのだ。ケイが住む世界からどれほど遠く離れた洋上においても、遠くから必ずケイのしあわせだけを祈って一人ねむる男パパがいるということをね。今夜は波のさわがぬ日で船室の窓を月光が白く照らしている。日本ではいま、花のさかりだろうね。パパぐらいの年になると、遠く離れていても人恋しさというものをあまり感じなくなるかわりに、故郷で目にふれた自然の色どりとといったものに飢えを感じるものらしい。といつても、ケイに早く会いたいという気持だけは別のものだがね。



裕作のロマンの香りがただよふ便りは、末尾の日附だけが英語書きになっていた。エプリル・21・1969・手紙は、ケープ・タウンから送られてくるのに四日をついやしている。と、きょうは二十五日。佳は踊りあがった。

——あと、二十五日近くで、パパが帰ってくる——
佳は、日焼けし、鋼のようによくなりました。身体つきの父を真近に見る気がして、唄うようにつぶやきながら、部屋中を歩きまわる。

「パパ帰ってくる。パパ帰ってくる。パパが帰ってくるウ——ラ、ラ、ラ、ラ……」

裕作が神戸港を発っていったのは、昨年の紅葉の季節だった。あれからすでに半年近くが過ぎている。半年目の上陸してくるパパ。元氣だろうか。

佳は、案じる。裕作も五十四歳。あと四、五年で停年のパパだ。すでに下り坂の年令に達した男ならば、いくら強靱であるとはいえ、長い海上生活は身体にこたえるだろう。

佳は、頭髮に白く霜のおく父や、背のかがまった父の姿を想像しようとする。しかし、佳の脳裏をよぎるどの顔も、父のものらしくない。

——いいんだ。パパがどれほどりりしさを失っていても、私はパパをそつとやさしく包んであげるパパ、ロマンス・グレイすてきだわ。それに、最近では、男の子も、すこしはいたわられる側にまわる方が女の子をホロつとさせるらしいわっていう具合に——

独白しながら、佳は執拗に父の老境の風貌をさぐりだそうとする。

——春暁先生のようになるだろうか。いや、違う。ではあのないやらしい紫峰のように？とんでもない——

あれこれと模索したあとの佳の脳裏に突然、一つの顔が浮かびあがった。

それは、過ぎた深夜、ボスのヒギンズ氏と共におとすれた願成寺の墓地のくらがりひっそりとうづくまっていた名乗りあうこともなく別れた老人の顔。

佳は、父からの手紙を手から離し、その場に立ちすくんだ。
(つづく)



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三惠洋服店

元町4丁目 TEL 04 7290

MEN'S SHOP
セゾユウ

ダンディガイズだけが
語りあえる店!

紳士服飾専門店

千穂庵

元町店 TEL34-6959

メトロ店 TEL34-0550



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

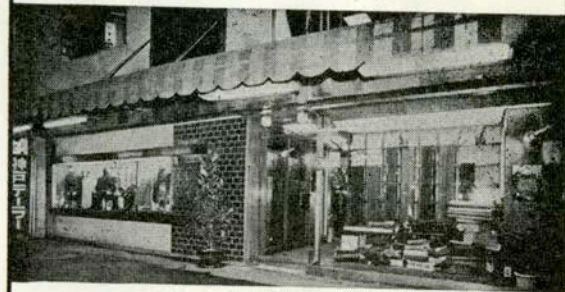
Kent shop

フナキヤ

元町3 TEL<32> 0356

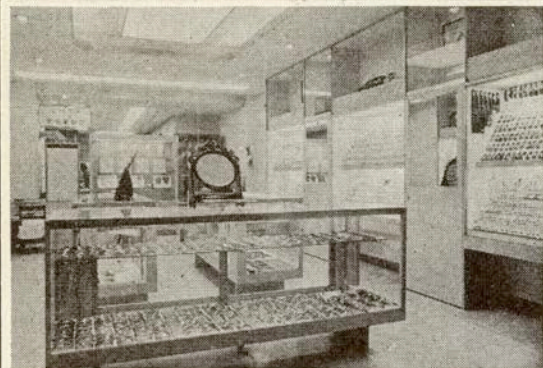
高級紳士服専門店

神戸テラー



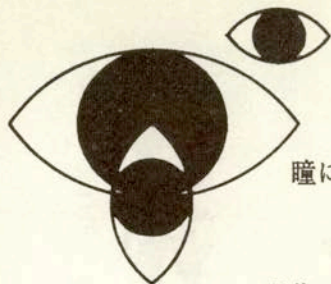
さんちかメンズタウン TEL 03 0388
生田区北長狭通2(阪急西口)

TEL 03 2817-3173



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

新装開店 **太田 鼈甲店**
元町4丁目 TEL ㉓ 6195



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市灘区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570

オリジナル **L** サイズ

草履新発売

創業明治二十八年

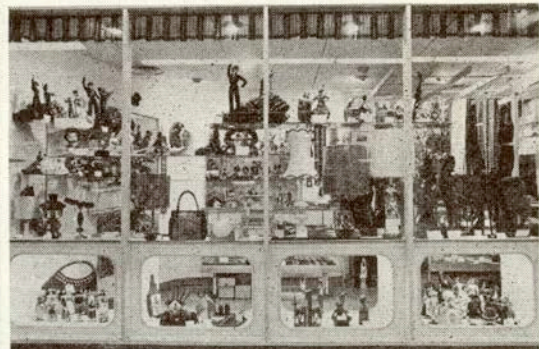
履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL (39) 0 2 5 6



直輸入インテリア・ギフト



サンレイ

神戸国際会館 1 階
TEL (078) 22-9713

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

アベニ宮
ムサシ

でんわ・
32 32 33 | 三七七一
| 〇六三三
〇六三三 | 四
〇六三五

おすし
てんぷら



崇
彌



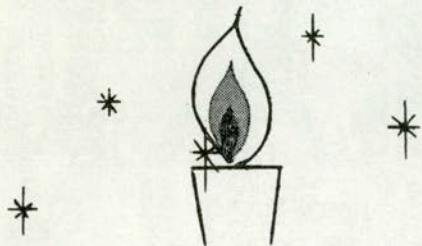
営業時間
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.

本店 大丸前・三宮 神社東
TEL (33) 5 5 7 7 4 2

支店 さんちか味のれん街
TEL (39) 5 2 3 3

(毎週水曜日休み)

MERRY CHRISTMAS



★ 年内は30日まで営業致します。新春は1月4日より営業致します。

Stand **CHISATO**

生田・東門筋東新ビル地階
TEL (33) 4 730



スタンド

香
桑

コウベビル地下
TEL 33-6763

桑畑房子

スナック&洋酒

ART

神戸市生田区北長狭通2丁目3番地
TEL39-0755

DRINKING

スナック

カクタス

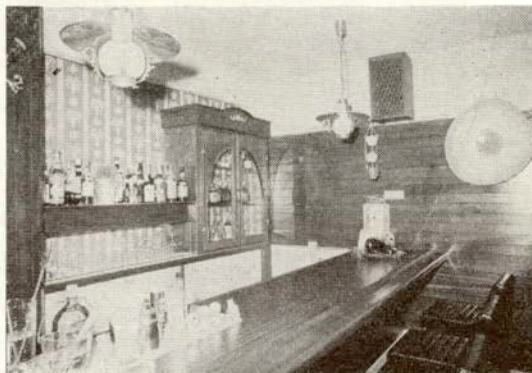
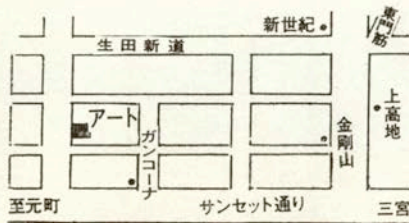
神戸三宮農業会館西上る
東洋ビル1F TEL33-3153



★冬の訪れは早い。しかし車を自分の域とし、館とするものにとっては、木枯し吹く冬景色もまた一興かなといったところだ。そんな時に、そんなムードの時に、ふと寄ってみたいなのがスナック“ART(アート)”である。味噌汁つきのおにぎり(¥400)をバクついて、コーヒー(¥200)で体をあたためて頭をすっきりさせる。

JAF加盟のASHIYA RACING TEAM(ART)の会長である松尾千代三さんが、この10月21日オープンしたスナック“アート”は、ガラス張りのドアから、車好きの、カーキチの顔が見える気楽な若やいだ店である。今は現役を退いて、専ら鈴鹿の競技役員をしている会長のもとに、アベックのお客がつかめかけて車談義にことかかない。スッキリしたインテリアも気持がいい。

ビール ¥200、焼めし、スパゲティ ¥250 PM5:00~AM1:00



冬の夜に強烈に残るイメージ。それはキラキラと照りつける砂漠での“カクタス”との出会いかも知れない。三宮東洋ビル1階にあるのが、スナック“カクタス”である。

“カクタス”とはくさぼてんのこと。白い壁、白いランプの快い広さのインテリアに、メキシコ名物のソブレロがぶらさがる。

気楽に話せるママの富井愛子さんと語りあうのもいいし、若い女性なら、藤間流の名取りである藤間紫雀君と騒ぐのも面白い。

落ちついた部屋の感じが、ボックスにもカウンターにもあらわれて、ハンバーガー、サンドイッチで、キミの食欲との酒の雰囲気満足させてくる。

営業時間 6:00PM~1:00AM

ビール ¥250 水割り ¥400

